

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

# 地理歴史

〔世界史A 世界史B 日本史A〕 (各科目)  
〔日本史B 地理A 地理B〕 (100点)

## 注意事項

- 1 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。特に、解答用紙の第1解答科目欄・第2解答科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- 2 出題科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出題科目	ページ	選 択 方 法
世界史A	4～23	受験できる科目数は、受験票に記載されているとおりです。
世界史B	24～47	
日本史A	48～73	なお、以下の組合せは選択できません。
日本史B	74～103	
地理A	104～133	・「世界史A」と「世界史B」
地理B	134～167	・「日本史A」と「日本史B」
		・「地理A」と「地理B」

- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

## 6 不正行為について

- ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
- ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者がカードを用いて注意します。
- ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

## 7 2科目受験者の試験の進行方法について(2科目受験者のみ確認)

- ① この試験は、前半と後半に分けて実施します。
- ② 前半に解答する科目を「第1解答科目」、後半に解答する科目を「第2解答科目」として扱います。解答する科目及び順序は、志望する大学の指定に基づき、各自で決めなさい。
- ③ 第1解答科目、第2解答科目ともに解答時間は60分です。60分で1科目だけを解答しなさい。
- ④ 第1解答科目の後に、答案を回収する時間などを設けてありますが、休憩時間ではありませんので、トイレ等で一時退室することはできません。

注) 進行方法が分からない場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。

## 8 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 日本史 B

(解答番号  ~ )

**第1問** 次の文章A・Bは、ある大学の歴史サークルに所属する静さんと、後輩の九郎さんの会話である。この文章を読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 16)

A

静 : 町名が変わるってニュースを見たよ。九郎君の出身地じゃない?

九郎 : そうなんです。武士の苗字のもととなった地名で、ゆかりの行事や文化も多く残る土地なのに、合併で今風な町名になってしまいます。

静 : 合併で自治体の名称が変わることは避けられない面もあるけど、<sup>㉑</sup>地名はその土地の歴史や文化を知る上で大事なものだから、残念だね。

九郎 : そういえば、山口県の秋吉台の近くにある長登銅山は、「<sup>ながのぼり</sup>ならのぼり」が語源だと聞いたことがあるな。この銅は<sup>㉒</sup>錢貨の鑄造以外に、平城京に運んで東大寺の大仏造立に使ったんだっけ。

静 : 地名から、人やモノの移動・交流の歴史を知ることのできる例だね。長登銅山やその付近で出土した木簡や土器などを根拠として、銅山の開発や経営に渡来人が関与したことも指摘されているよ。

九郎 : 渡来人といえば、京都府の<sup>うすまさ</sup>太秦は、渡来人の秦氏に由来していますね。

静 : 神奈川県<sup>はだの</sup>の秦野なども秦氏に関係する地名だとの説もあるし、渡来人は関東にも多く移住していたようだね。その活動は東北にもおよんでいて、天平年間に陸奥守として金を献上した百済王敬福は、倭国に亡命した百済王族の子孫だよ。また、869年に陸奥国で大地震と津波が発生したときには、貿易のため大宰府に滞在していた新羅人たちが、陸奥国に移住させられている。瓦造りなどの技術を復興に役立てることが期待されたんだ。

九郎 : 9世紀の新羅人は東アジアの国際貿易に乗り出していましたね。

静 : 当時、日本は新羅と対立し、国交も断絶に近かったけど、一方で<sup>㉓</sup>新羅

人の活動はめざましく、日本を頻繁に訪れていた。唐でも、あちこちの都市に新羅人街ができていて、ゆかりの地名が今に残る例もあるそうだよ。

九 郎：国家的な外交とは別に、民間レベルの交流の歴史も大事ということか。

問 1 下線部③に関連して、地名の由来について述べた次の文 X・Y と、それに該当する語句 a～d との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 1

X 奈良時代に編纂が命じられた、諸国の地理や産物などをまとめたこの書物には、各地域の地名の由来が記されている。

Y 沖縄の地名に残るグスク(城)とは、多くは琉球の地方豪族(首長)である彼らが築いた拠点に由来する。

a 万葉集                      b 風土記                      c 在庁官人                      d 按 司

- ① X — a      Y — c                      ② X — a      Y — d  
 ③ X — b      Y — c                      ④ X — b      Y — d

問 2 下線部①に関連して、古代から近代までの貨幣について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① 飛鳥時代には、日本最初の鑄造銭貨(銅銭)として和同開珎がつくられた。  
 ② 鎌倉時代には、幕府が金座・銀座・銭座を設け、貨幣を発行した。  
 ③ 江戸時代には、幕府が中国から寛永通宝を輸入し、全国へ流通させた。  
 ④ 昭和期には、高橋是清蔵相のもとで、日本は管理通貨制度に移行した。

## 日本史B

- 問 3 下線部㉔に関連して、次の史料は、平安時代に遣唐使とともに入唐した延暦寺僧の円仁が、帰国する遣唐使一行と別れて、不法に唐に残留しようとした際の記述である。この史料に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 3

### 史料

其の九隻の船(注1)は、官人を分配し、船頭として押領(注2)せしむ。押領するものは、本国水手(注3)の外、更に新羅人の海路を暗ずる(注4)もの六十余人を雇いて、船ごとに或いは七、或いは六、或いは五人なり。亦新羅訳語正南(注5)をして留まるべき方便(注6)を商らしむ(注7)。未だ定まらざるなり(注8)。

(円仁『入唐求法巡礼行記』)

- (注1) 其の九隻の船：行き船が破損したので、遣唐使が帰国のため現地で調達した9隻の新羅船。  
(注2) 押領：監督・統率。  
(注3) 本国水手：「本国」は日本。「水手」は水夫。  
(注4) 暗ずる：暗記する。暗唱する。  
(注5) 新羅訳語正南：「訳語」は通訳。「正南」は金正南という新羅人で、行き遣唐使の船で入唐。  
(注6) 留まるべき方便：円仁が唐に残留するための方法。  
(注7) 商らしむ：検討させる。  
(注8) 未だ定まらざるなり：どうするのが良いか決まらない。

- X この遣唐使は、帰国の航海のために、各船に日本人の官人・水夫を配置し、さらに新羅人の熟練した船乗りを雇用して配置している。  
Y この遣唐使には、新羅人の通訳が随行しており、円仁は唐への残留計画を彼に秘密にしている。

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | X | 正 | Y | 正 | ② | X | 正 | Y | 誤 |
| ③ | X | 誤 | Y | 正 | ④ | X | 誤 | Y | 誤 |

## B

九 郎：そういえば北海道には、アイヌ語に由来する地名が多いですね。

静：アイヌは、自分たちの活動したほとんどあらゆる場所に、生活と密着した呼称をつけていて、そこには彼らの歴史や文化があらわれているよ。

九 郎：確かに北海道やその周辺地域では、長らく特定の国家に属することなく、アイヌなどの人々が独自の歴史と文化を築いてきましたね。近年、アイヌについては、隣接諸地域との活発な交易活動や、モンゴル帝国と戦いをくり広げたことなど、その歴史の躍動的な側面も注目を集めていますね。

静：でも、特定の国家に属してこなかったからこそ、①北海道やその周辺地域に日本やロシアが進出し、領土に組み込んでいくと、そこに暮らす人々の運命は大きく翻弄されてしまうよ。

九 郎：そうですね。たとえば、明治政府がロシアとの国境を画定するため **ア** を結んだときには、多くのアイヌが故郷から遠く離れた土地への移住を余儀なくされ、伝染病などで亡くなっていますね。

静：アイヌに農地を与えるなどして救済する名目の **イ** も、生活向上にはあまり成果がなく、同化政策としての面が強かったといわれているね。

九 郎：それでも、アイヌ民族としての自覚を今に受け継ぎつつ、現代社会を生きる人々は少なくないと聞いています。先住民族としてのアイヌの立場を訴え続けた萱野茂<sup>かやのしげる</sup>は、常々「地名は、アイヌが先住民族であるあかしを大地に刻んでいる」といっていましたね。

静：2008年には、前年の「先住民族の権利に関する国際連合宣言」をうけて、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が国会で採択されたけど、そこではアイヌの人々が②近代以降、貧困や差別に苦しんだことにも言及されているね。先住民族の権利は、今日的な問題なんだよ。

九 郎：地名は現代を考えるヒントにもなっているんですね。

## 日本史B

問 4 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 樺太・千島交換条約      イ 自作農創設特別措置法
- ② ア 樺太・千島交換条約      イ 北海道旧土人保護法
- ③ ア 日露和親条約              イ 自作農創設特別措置法
- ④ ア 日露和親条約              イ 北海道旧土人保護法

問 5 下線部①に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 松前氏(蠣崎氏)がアイヌとの交易の独占権を幕府から認められた。
- Ⅱ ロシアの極東進出・南下への対応として、幕府による蝦夷地の探検・調査が進められた。
- Ⅲ 蝦夷ヶ島の南端に和人が進出し、各地に館とよばれる拠点が成立すると、コシャマインに率いられたアイヌが蜂起した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ              ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ              ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
- ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ              ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ              ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 6 下線部㉔に関連して、近代以降の人々の権利の問題を取り上げた人物や団体について述べた次の文X・Yと、それに該当する語句a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 6

X この人物は、自らの体験を素材に、労働者たちの争議を描いた『太陽のない街』を執筆した。

Y この団体は、被差別部落の人々が、自らの手で社会的差別を撤廃することをめざし、1922年に結成された。

a 永井荷風

b 徳永直

c 全国水平社

d 平民社

① X — a    Y — c

② X — a    Y — d

③ X — b    Y — c

④ X — b    Y — d



## 日本史B

**第2問** 原始・古代の歴史研究と資料について述べた次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 16)

A 歴史の研究においては、史書や古文書などの文献史料のほかにも、石碑や鉄剣銘など、石や金属製品に記された文字資料である金石文<sup>きんせきぶん</sup>も、重要な研究材料となる。金石文は、文献史料にはみえない事柄を伝えたり、既知の出来事などを裏づけたりすることがある。後者の例として、㉔福岡県志賀島で江戸時代に発見された金印がある。これは、北部九州の勢力が、中国の王朝と交渉をもっていたことを示す貴重な資料である。

また、㉕6世紀の古墳である島根県松江市の岡田山一号墳からは、文字の記された鉄製の大刀が出土しており、「各田」<sup>ぬかた</sup>「臣」<sup>べのおみ</sup>(額田部臣)という字句を読み取ることができる。これは、部民制の存在を示す重要な資料といえる。

さらに、大阪府高槻市では、㉖藤原仲麻呂政権下で活躍した石川年足<sup>いしかわのとしたり</sup>の墓誌が江戸時代に発見されているが、そこには年足の官職が「御史大夫<sup>ぎよしたいふ</sup>」と記されている。『続日本紀』には、仲麻呂が官職名を中国風に改め、大納言を御史大夫とした、という記載があり、この墓誌はそれを裏づける資料として重要である。

問1 下線部㉔と最も関係の深い出来事を述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 倭人社会は百余国に分かれ、前漢の楽浪郡に定期的に使者を送った。
- ② 倭の奴国の王が後漢の皇帝に使者を送った。
- ③ 卑弥呼が魏の皇帝に使者を送った。
- ④ 壹与が晋の皇帝に使者を送った。

問 2 下線部①に関して、この時期のヤマト政権の民衆支配の仕組みについて述べた次の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、下の①~④のうちから一つ選べ。 8

- a ヤマト政権は、畿内の豪族を各地に国造として派遣し、民衆を統治させた。
- b 有力な豪族は、それぞれに隷属する私有民として部曲を保有した。
- c 大王やその一族に奉仕する集団として、名代・子代が各地に設定された。
- d 伴造は、職業集団である伴や品部に率いられ、朝廷の職務を分担した。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問 3 下線部②に関して述べた次の文 X・Y と、それに該当する語句 a ~ d との組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。 9

X 仲麻呂の打倒を企てたが、失敗して滅ぼされた。

Y 仲麻呂の反乱の平定後、称徳天皇の発願でつくられ、中に印刷された経典が納められた。

- a 橘奈良麻呂      b 藤原広嗣      c 百万塔      d 正倉院宝庫

- ① X — a      Y — c      ② X — a      Y — d  
 ③ X — b      Y — c      ④ X — b      Y — d

## 日本史B

B 古代の文献史料の多くが、都を中心とした中央の歴史を伝えるのに対し、金石文は、それが残された地域の歴史を伝える資料としても重要である。

群馬県高崎市に所在する山<sup>やまのうえひ</sup>上碑は、681年に立てられた石碑で、<sup>さのみやけ</sup>「佐野三家」をめぐる現地の豪族層の動向を読み取ることができる。碑文に登場する<sup>ほうこうじ</sup>「放光寺」は、11世紀に、上野国の①国司の交替に際して作成された文書にもその名を確認することができる。さらに、群馬県前橋市の寺院の遺跡からは、「放光寺」と記された瓦が出土し、その場所に「放光寺」があったと推定されている。

また、栃木県大田原市に現存する②那須国造碑は、<sup>なすのあたいで</sup>那須直章提という現地の豪族の死後、彼の一族によって造られたものと考えられ、律令体制形成期の那須地方の様子や、地方行政制度の展開の一端を伝えている。

さらに、熊本県宇城市にある浄水寺寺領碑は、826年頃の石碑で、浄水寺の所有する田地の所在地や用途、面積などが記載されており、③平安時代の地方社会における田地の実態を考えるうえで重要な手がかりとなる。

問 4 下線部①に関して、古代の国司制度に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 

10
----

- Ⅰ 律令制にもとづく地方統治の拠点として、国府が設置されはじめた。
- Ⅱ 国司の交替の際の引継ぎを厳しく監督するため、新たに勘解由使が設置された。
- Ⅲ 赴任する国司の最上席者が、大きな権限と責任を負い、受領とよばれるようになった。

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ | ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ | ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ |
| ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ | ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ | ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ |

- 問 5 下線部㉔に関連して、次の史料は、那須国造碑に刻まれた碑文の一部である。この史料に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 11

## 史料

永昌元年己丑(注1)四月、飛鳥浄御原の大宮(注2)の那須国造、追大老(注3)那須直韋提、評督(注4)を賜る。歳は庚子に次る年、正月二壬子の日(注5)、辰節に殤る(注6)。故に、意斯麻呂(注7)等、碑銘を立て偲びて爾云う(注8)。(後略)

- (注1) 永昌元年己丑：「永昌」は唐の年号(元号)。年を干支による表記と組み合わせで示している。  
 (注2) 飛鳥浄御原の大宮：飛鳥浄御原宮の朝廷。  
 (注3) 追大老：天武天皇の時代に定められた冠位。  
 (注4) 評督：評の長官のこと。  
 (注5) 歳は庚子に次る年、正月二壬子の日：年月日を干支による表記と組み合わせで示している。  
 (注6) 殤る：死去すること。  
 (注7) 意斯麻呂：韋提の一族で、その後継者。  
 (注8) 爾云う：「このように述べる」という意味。この後に続く内容を示す表現で、ここでは(後略)の部分を目指す。

X 史料からは、那須地方の豪族層に、中国王朝にかかわる知識・情報が知られていたことを読み取ることができる。

Y 史料からは、大宝律令にもとづく官僚制や地方行政組織を読み取ることができる。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| ① X 正 Y 正 | ② X 正 Y 誤 |
| ③ X 誤 Y 正 | ④ X 誤 Y 誤 |

## 日本史B

問 6 下線部①に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 財政が悪化した朝廷は、公営田や官田(元慶官田)を設置して、財源確保をはかった。
- ② 班田収授を励行させるため、班田の期間を12年ごとに改めたが、班田の実施は困難になっていった。
- ③ 開発領主たちの中には、国司の干渉から逃れるため、所領を中央の貴族や寺社に寄進するものがあった。
- ④ 官物や臨時雑役などの税が、土地を対象に課されるようになったことで、戸籍にもとづく支配が強化された。

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。



## 日本史B

**第3問** 中世の政治と社会に関する次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 16)

A 古代中国に起源をもつ年号(元号)は、君主などが定めた、2字以上の漢字を冠して年を表す称号である。

近世以前の日本では、④天皇の即位や災害など多様な契機によって、新しい年号に改める改元が行われた。年号の使用をめぐって、中世には特徴的な事件が起こっている。

12世紀末の内乱では、東日本で挙兵した源頼朝や  が、改元後も治承の年号をしばらく使い続け、都落ちした平氏も安徳天皇時代の年号にこだわるなど、異なる年号が並行して用いられた。また、建武新政の崩壊後、14世紀末に  の仲介で南北朝の合体(合一)が実現するまでは、二つの朝廷が別々に年号を制定する機会が多かったこともよく知られている。

朝廷が改元した新しい年号を受け入れるか否か、朝廷が分裂した場合にどちらの年号を採用するかは、⑤中世の支配階層にとって、重要な政治的選択となったのである。

問1 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 源義家      イ 足利義輝
- ② ア 源義家      イ 足利義満
- ③ ア 源義仲      イ 足利義輝
- ④ ア 源義仲      イ 足利義満

問 2 下線部②に上皇が関与した院政期の政治について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 法や慣習を無視した専制的な政治が行われ、国司の制度が廃された。
- ② 院庁が出す院庁下文などの文書が国政に効力をもつようになった。
- ③ 荘園の寄進がおとろえ、知行国の制度が院政の経済的基盤とされた。
- ④ 所領関係の訴訟を処理する機関として、雑訴決断所をおいた。

問 3 下線部①に関連して、12世紀末から14世紀の出来事について述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 15

- Ⅰ 中先代の乱を機に天皇の政権に離反する武士が現れた。
- Ⅱ 鎌倉殿とその軍勢が奥州藤原氏を滅ぼした。
- Ⅲ 元からの度重なる朝貢要求を幕府が拒否した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ                      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ                      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
- ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ                      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ                      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ



## 日本史B

B ㉔ 南北朝の合体の2年後から始まる応永という年号は、近世以前で最長の35年も続いた。この年号は、後小松・称光の2代の天皇にわたり使用され続け、称光天皇の即位から15年ものあいだ改元されなかった点で注目される。

この年号が正長に改められたのは、元将軍義持の没後、弟の義教が将軍候補となった後である。さらに、正長が永享に改められたのはその翌年、義教の将軍職就任後であった。ところが、㉕ 義教の将軍職就任を認めなかった鎌倉公方は、永享の年号を使用しなかった。室町将軍が改元の実施に強い影響力をもつようになり、将軍と対立する鎌倉公方が新年号を拒絶する態度を示したのである。

支配者の権力争いが年号使用のあり方に反映する一方で、㉖ 中世の地方社会には、朝廷の定めたものではない年号の使用例が確認できるようになる。とりわけ15世紀末に東日本の一部で「福德」という年号が使用された例などは、地方社会の独自性がさらに強まったことを象徴する。しかし、こうした私的な年号は、統一政権の出現する近世に入ると、急速に姿を消していく。

問 4 下線部㉕の時期の出来事について述べた文として誤っているものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 

16
----

- ① 京都北山の北山殿(第)に金閣が造営された。
- ② 朝鮮軍が倭寇の本拠地と考える対馬を攻撃した。
- ③ 鎌倉府で反乱を起こした上杉禅秀が追討された。
- ④ 中国の寧波で細川氏と大内氏との紛争が生じた。

問 5 下線部㉑に関連して、鎌倉公方に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 17

X 足利義教は関東に軍兵を送り、足利持氏らを討ち滅ぼした。

Y 鎌倉公方は、のちに古河公方と堀越公方とに分裂した。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 6 下線部㉒に関連して、室町時代から戦国時代の地方社会に関して述べた次の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

18

a 稲の品種改良が進み、早稲・中稲・晩稲の作付けが普及した。

b 美濃の紙や河内の木綿など、特産品の生産がおとろえた。

c 時宗や律宗からなる林下の布教活動がさかんに行われた。

d イエズス会の布教活動が九州で始まった。

① a・c

② a・d

③ b・c

④ b・d

## 日本史B

**第4問** 近世の社会・政治・文化に関する次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)  
(配点 16)

A 江戸時代、土木技術の発展を背景に①大規模な土木工事が行われるようになった。治水事業や用水路の開削、新田開発も進められ、17世紀には耕地面積が大幅に増加した。関東平野では、乱流して江戸湾に注いでいた利根川の付け替え工事が1654年に完成し、氾濫原や沖積地の耕地化を促した。同年、多摩川の水を江戸に引く玉川上水も完成したが、その水は分水され武蔵野台地の灌漑にも利用された。新田村の増加を一つの要因に、全国の村の数が増えた。

②江戸時代の村は、百姓によって自治的に運営されていた。たとえば、村にとって近隣の山や野は、燃料を採取する森林、あるいは肥料や飼料となる草を採取する採草地として重要で、これらの管理は村で行われていた。しかし、採草地として利用するために樹木の生育を抑制することが、土砂の流出を招き、災害を引き起こすこともあった。また、③山や野の利用をめぐる村々の争いもしばしば起きた。さらに、新田開発の進行にともない、開発の対象が山や野にまでおよび、山や野を利用していた村々が開発に反対することもあった。

問 1 下線部㉔に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する語句a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 19

X この人物は京都の豪商で、富士川の整備、高瀬川の開削に当たった。

Y 江戸幕府が、大名に河川の改修などの負担を命じた。

a 本阿弥光悦      b 角倉了以      c 手伝普請      d 小物成

- ① X — a      Y — c                      ② X — a      Y — d  
 ③ X — b      Y — c                      ④ X — b      Y — d

問 2 下線部㉕に関連して、近世の村や百姓について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 年貢の納入に村は関与せず、百姓が個々に責任を持った。  
 ② 街道周辺には、助郷役を負担させられる村々があった。  
 ③ 村の運営経費である村入用は、幕府が支給した。  
 ④ 百姓は犯罪防止のために、結(ゆい)・もやいに編成された。

## 日本史B

- 問 3 下線部㉔に関連して、次の史料は、安房国(現在の千葉県南部)の川名村と金尾谷村での、採草地をめぐる争論(紛争)に関し、1830年に作成された和解の文書である。この史料に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 

21
----

### 史料

川名村・金尾谷村両村堺(注1)、金堀山頂上<sup>まぐさば</sup>秣場(注2)争論に及び、既に御公訴(注3)に及び申すべきところ、隣村舟形村<sup>ふなかた</sup>名主九右衛門・那古村<sup>なご</sup>寺領名主武兵衛・深名村組頭市郎右衛門・白坂村組頭長左衛門取り扱い(注4)立ち入り、双方へ異見<sup>つかまつ</sup>仕り(注5)、承知納得の上、(中略)、四ヶ村立ち入り、争論相預かり(注6)、両邑(注7)永々入会の秣場に熟談(注8)仕り候。

(『千葉県の歴史』資料編近世2)

- (注1) 村堺：村の境。  
(注2) 秣場：肥料や飼料を採取するための採草地。  
(注3) 公訴：おおやけ(ここでは幕府)に訴え出ること。  
(注4) 取り扱い：仲裁すること。  
(注5) 異見仕り：意見すること。忠告すること。  
(注6) 争論相預かり：紛争の処置を一任してもらうこと。  
(注7) 邑：村。  
(注8) 熟談：よく話し合って示談すること。

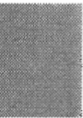
X この紛争は、近隣の名主2人と組頭2人によって仲裁された。

Y この紛争の対象となった採草地は、当事者の両村で共同利用することで合意した。

- |       |     |       |     |
|-------|-----|-------|-----|
| ① X 正 | Y 正 | ② X 正 | Y 誤 |
| ③ X 誤 | Y 正 | ④ X 誤 | Y 誤 |

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。



## 日本史B

B 大田南畝は1749年に幕府の御家人の家に生まれた。早くから文才を発揮し、<sup>よものあから</sup>四方赤良と号して天明期の  の流行の中心となり、洒落本や黄表紙なども発表した。しかし①寛政の改革を推進する松平定信が政界に登場した頃、戯作活動から一時退いた。出版統制により洒落本・黄表紙作家の  らが処罰されるのをよそに、南畝は漢詩文の研鑽<sup>けんさん</sup>につとめた。

1794年、南畝は幕府が行った学術試験に優秀な成績で合格した。勘定所の役人に登用され、民衆教化のために善行者の事跡を記録した『孝義録』の編纂<sup>へんさん</sup>に加わり、また、勘定所の古い書類の整理にも従事した。南畝は書類の一部を書き抜き、<sup>ちつきようとかん</sup>『竹橋臺簡』<sup>ちつきようよひつ</sup>『竹橋余筆』として編集したが、これらは現在、幕府財政などに関する貴重な史料になっている。さらに、1801年に大坂の銅座、1804年には長崎奉行所に赴任し、②長崎滞在中にはロシアの使節に面会している。こうした活躍にもかかわらず旗本に取り立てられることはなかったが、晩年文名はますます上がり、大坂滞在時に名乗り始めた蜀山人の号でも今に知られている。

問 4 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 川 柳      イ 井原西鶴
- ② ア 川 柳      イ 山東京伝
- ③ ア 狂 歌      イ 井原西鶴
- ④ ア 狂 歌      イ 山東京伝

問 5 下線部㉑に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 各地に社倉や義倉をつくり、飢饉に備えて米穀を蓄えさせた。
- ② 江戸町会所を設け、町入用の節約分を運用させて貧民救済などに充てた。
- ③ 上知令を出し、江戸・大坂周辺を幕府の直轄地にしようとした。
- ④ 石川島に人足寄場をつくり、無宿人を強制的に収容した。

問 6 下線部㉒に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 24

- Ⅰ キリスト教の宣教師・信者 26 名が、長崎で処刑された。
- Ⅱ 中国人の居住地を 1 か所に限定するため、唐人屋敷が設けられた。
- Ⅲ 平戸にあったオランダ商館が、長崎の出島に移された。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ                      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ                      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
- ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ                      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ                      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ



## 日本史B

第5問 近世・近代における公家と華族に関する次の文章を読み、下の問い(問1～4)に答えよ。(配点 12)

江戸幕府は公家の居所を京都に限り、幕政への関与を許さなかった。庶民にとり見慣れぬ公家は興味関心の対象であり、御所への参内を見物する人々も多かった。

幕末になり、㉠開国問題で朝廷の政治的影響力が増すと、政治の舞台で活躍する公家が現れた。なかでも岩倉具視は、將軍徳川家茂と皇女和宮の婚姻を進め公武合体を画策し、それに反対した公家から糾弾され蟄居に処された。しかし、蟄居中に薩摩藩の倒幕派と通じ、摂政・関白や將軍職を廃止して天皇中心の政府樹立をめざす  など新政府の基本方針の策定にかかわり、明治維新の立役者となった。

1869年、明治政府は大名や公家を華族とし、その後、㉡東京へ移住させた。四民平等の政策を進める一方で、華族に四民の模範として皇室を守る役割を求めつつ、維新以来の功労者も華族とするなど㉢華族制度を整備していった。公家出身の華族も、法律案を審議する  の議官をつとめるなど、国政にかかわった。西園寺公望のように総理大臣をつとめた者もいる。国民の中に特別な存在を設ける華族制度は、日本国憲法の施行まで続いた。

問1 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |          |   |     |
|---|---|----------|---|-----|
| ① | ア | 王政復古の大号令 | イ | 元老院 |
| ② | ア | 王政復古の大号令 | イ | 大審院 |
| ③ | ア | 五榜の掲示    | イ | 元老院 |
| ④ | ア | 五榜の掲示    | イ | 大審院 |

問 2 下線部㉔に関連して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 26

X 井伊直弼は、孝明天皇の勅許を得て、開国に踏み切った。

Y 安藤信正は、朝廷との融和をはかる公武合体に反対し、老中を辞職した。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 3 下線部㉕に関連して、明治初期の東京に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

① 戊辰戦争によって江戸城は焼失し、その跡に皇居が造営された。

② はじめての電信が、東京一新潟間に開通した。

③ 廃藩置県によって旧藩主は知藩事を罷免され、東京へ居住させられた。

④ 自由民権運動の全国的組織である愛国社は、東京で結成された。

問 4 下線部㉖について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

① 廃藩置県後も、政府は華族に家禄を支給した。

② 華族令によって、華族には爵位が与えられた。

③ 大日本帝国憲法によって、天皇と華族に軍隊の統帥権が認められた。

④ 華族は貴族院議員になる資格を持っていた。

## 日本史B

**第6問** 近現代の日米関係に関する次の文章A～Cを読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 24)

A 日露戦争に勝利した日本は、列国と協定や協約を結び、アジアへの進出を強めていった。アメリカとの間でも、1917年に  を結び、中国における日本の権益と中国の領土保全・門戸開放を相互に承認しあつた。

第一次世界大戦後、日本は① 幣原喜重郎 外相による米英との協調外交を展開し、中国に対して内政不干涉政策をとつた。しかし、中国で国権回復を求める民族運動が広がると、満州への波及を恐れる軍部のなかで強硬外交への転換を主張する動きが強まり、政友会や国家主義団体、財界でも同様の動きが起こつた。

1930年代以降、満州事変から日中戦争へと、日本が中国大陸への軍事進出を拡大していくと、アメリカは中国を支援して、これに対抗した。日中戦争が泥沼化していくなかで、日本軍が  に進駐すると、アメリカは対日経済制裁を強化した。日米関係の亀裂はさらに深まり、アジア太平洋戦争(太平洋戦争)が始まつた。開戦後、② アメリカで生活する日本人と日本で生活するアメリカ人 は、それぞれ収容所に入れられたり、交換船で本国に送還されたりした。

問1 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |            |   |                |
|---|---|------------|---|----------------|
| ① | ア | 石井・ランシング協定 | イ | フランス領インドシナ(仏印) |
| ② | ア | 石井・ランシング協定 | イ | フィリピン          |
| ③ | ア | 桂・タフト協定    | イ | フランス領インドシナ(仏印) |
| ④ | ア | 桂・タフト協定    | イ | フィリピン          |

問 2 下線部㉔について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 30

- ① 日本全権として、ポーツマス条約に調印した。
- ② 初代朝鮮総督として、武断政治を実施した。
- ③ 首相として、降伏文書に調印した。
- ④ 首相として、新憲法の制定に着手した。

問 3 下線部㉕に関連して、近現代における海外での日本人の動向に関して述べた  
文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① 日朝修好条規の締結をきっかけに、朝鮮で東洋拓殖会社が設立された。
- ② 日露戦争の後に、多数の日本軍の軍人・軍属がシベリアに抑留された。
- ③ 満州事変の勃発により、満州への移民が廃止された。
- ④ アジア太平洋戦争(太平洋戦争)敗戦前後の混乱のなかで、中国から帰国できず、残留孤児となる者が生じた。

## 日本史B

B 日本の敗戦後、連合国の対日占領で主導権を握ったのはアメリカであった。連合国軍最高司令官となったマッカーサーは、東京にGHQにおいて、日本の民主化と非軍事化を進める占領政策を実施した。その際、GHQは、日本政府に指令や勧告を発する  統治の形態をとった。

占領政策にはアメリカの民間人が多数参加し、特別公使として赴任したドッジは、日本政府に対して、歳出を極力  超均衡予算を編成させた。㉔戦前に日本に滞在したことがあるベアテ=シロタは、GHQの女性スタッフとして、日本国憲法の草案作りに参加し、女性の地位向上を提案した。

戦後の文化にアメリカが与えた影響も大きかった。戦時中禁止されていたアメリカ映画やジャズが復活し、ラジオ放送では、英会話講座が人気を博した。しかし、GHQは、日本人に完全に自由な言論や表現活動を保障したわけではなく、新聞や雑誌の原稿、ラジオ放送や映画、芝居などの脚本まで、㉕検閲の対象とした。

問 4 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウ 間 接      エ 抑制する
- ② ウ 間 接      エ 増加させる
- ③ ウ 直 接      エ 抑制する
- ④ ウ 直 接      エ 増加させる

問 5 下線部㉔に関連して、幕末以降に日本に滞在したアメリカ人について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ハリスは、江戸幕府に通商条約の締結を求めた。
- ② モースは、地方制度について明治政府に助言した。
- ③ フェノロサは、日本の伝統美術を高く評価した。
- ④ クラークは、札幌農学校で教育に当たった。

- 問 6 下線部①に関連して、次の史料は、GHQが日本政府に出した指示の一部である。この史料に関して述べた下の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

## 史料

連合軍最高司令部(注1) 一九四五年九月一九日

日本帝国政府ニ対スル覚書

題名 日本ニ与フル新聞紙法

- 一 報道ハ厳格ニ真実ヲ守ラザルベカラズ
- 二 直接タルト推論ノ結果タルトヲ問ハズ、公安(注2)ヲ害スベキ事項ハ何事モ掲載スベカラズ
- 三 連合軍ニ対シ、虚偽若<sup>もしく</sup>ハ破壊的ナル批判ヲ為スベカラズ
- 四 進駐連合軍ニ対シ、破壊的ナル批判ヲ加ヘ、又ハ同軍ニ対シ、不信若ハ怨恨ヲ招来スルガ如キ事項ヲ掲載スベカラズ

(「占領軍進駐ニ伴フ報道取扱要領等」)

(注1) 連合軍最高司令部：連合軍最高司令官総司令部。

(注2) 公安：社会全体の平安と秩序。

X この史料では、GHQは、真実であれば公安を害することでも報道することを許している。

Y この史料では、GHQは、連合軍に対する不信や怨恨を招くような報道を禁止している。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

## 日本史B

C 1950年、朝鮮戦争が勃発すると、吉田茂内閣はアメリカの求めに応じて警察予備隊を創設し、再軍備を進めた。1951年、日本はサンフランシスコ平和条約に調印し、国際社会への復帰の道筋をつけた。同時に日米安全保障条約を結び、さらに翌年、同条約に基づいて **オ** を結んだ。これらの結果、沖縄や小笠原諸島などはアメリカの施政権下におかれることとなり、同国の軍隊が日本国内の基地に駐留を続けることとなった。

1960年代に入ってから、アメリカはアジアへの介入を続け、東アジア情勢は大きく変化した。**カ** 内閣は、アメリカのアジア政策に協力する姿勢をとり、日韓基本条約を結ぶ一方、沖縄返還交渉を進めた。日米関係をめぐっては、1980年代には貿易摩擦なども起きたが、1990年代以降、㊦ 軍事・防衛での協力が進んだ。

問7 空欄 **オ** **カ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **35**

- |     |                   |   |      |
|-----|-------------------|---|------|
| ① オ | 日米相互防衛援助協定(MSA協定) | カ | 佐藤栄作 |
| ② オ | 日米相互防衛援助協定(MSA協定) | カ | 大平正芳 |
| ③ オ | 日米行政協定            | カ | 佐藤栄作 |
| ④ オ | 日米行政協定            | カ | 大平正芳 |

問 8 下線部㉔に関連して、1990年代の日米の軍事・防衛関係に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。

36

- a 湾岸戦争の際、日本は多国籍軍への資金援助要請を拒絶した。
- b 湾岸戦争後、国会でPKO協力法(国連平和維持活動協力法)が成立した。
- c 日米協力のための新ガイドライン関連法が成立した。
- d 在日米軍基地に反対する運動が広がり、砂川事件が起こった。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d